

## 題材名「すがたを変える大豆」「食べ物はかせになろう」

### 目 標

- ・ 身近な食べ物についての知識を得るとともに興味を広げる。
- ・ 中心となる語や文、段落相互の関係に注意して文章を読む。
- ・ 本での調べ方を知り、身近な食べ物について調べ、わかりやすくまとめて友だちと交流する。

### コンピュータを活用する利点

「いる」「にる」という調理法について国語辞典で調べても、生活体験の希薄性から、それをイメージ化できない児童が多い。そこで、動画で「いる」「にる」の調理の様子を見せることで、言葉を具体的にイメージ化することができる。また、「デジタル教科書」を使用し、文章を色分けしたり、線を引いたりすることで、児童の視線を中心となる語や文に集中させたり、段落構成を視覚的に整理したりすることができ、読みの苦手な児童にも分かる授業の展開を目指すことができる。

### 授業の流れ

1 本時の課題をつかむ。

2 第3段落を読む。

3 大豆から作られた食べ物を読み取る。

4 **へんしんまほう（おいしく食べる工夫）を見つける。**

・教科書に線を引く。  
（デジタル教科書）

・「いる」「にる」という調理法をイメージ化する。（動画）

5 第3段落を学習して、分かったことを書く。

### ICT 活用場面

大豆に手を加えて姿を変えることを、「へんしんまほう」と名づけて、より興味を持たせ、段落の中心となる言葉に着目して読みとりをした。また、デジタル教科書の



文章を色分けし、視覚的に整理をし、分かりやすい授業展開にした。

意見を全員に提示するために、電子黒板の文章に線を引かせる。

「くふう」というキーワードに気づかせるために、どの言葉が「へんしんまほう」にあたるかを考えさせる。

「いる・にる」は、国語辞典で意味を調べさせるようにする。生活体験を話し合ったり、「いる」・「にる」という調理法を動画で見せたりして、言葉を具体的にイメージさせる。

### 成果と課題

動画を見せることでイメージ化でき、「いる」「にる」という工夫は、大豆をおいしくする工夫であることが、児童に理解できた。言葉のイメージを児童で話し合うことは大切であるが、体験上不足している内容を動画で見せることは、有効であった。また、デジタル教科書の文章の色分けは、読みの苦手な児童にも分かる授業の展開であった。

さらに、実際に大豆をいったり、にたりすることができれば、匂いや質感も感じ取ることができたと思う。

### ICT 活用環境等

使用周辺機器	ノートパソコン・プロジェクタ・電子情報ボード
使用ソフト名	光村デジタル教科書、メディアプレーヤー
使用教室	普通教室